

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：32402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24617015

研究課題名(和文) 明治以降の社会文化と政治機構変動の日本語への影響：分野による表現差の計量解析

研究課題名(英文) Impact of social-cultural and political changes on the Japanese language after the Meiji era: A quantitative analysis of differences in expression

研究代表者

金城 ふみ子 (KINJO, Fumiko)

東京国際大学・経済学部・教授

研究者番号：50275799

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：明治以降の社会変動や厳しい思想言語統制期に文学作品及び社会科学分野の双方の文章を書いた経済学者早川三代治と文学の師の有島武郎の文章を対象に、社会文化と政治機構変動の日本語への影響について、社会思想・文学・学会活動や西欧語の特徴を小樽商科大学附属図書館早川文庫の資料調査や計量解析を含めて考察した、実証的な事例研究である。研究の結果、両者の文章の特徴は、特に文学作品では西欧語の影響、特に、無生物主語・擬人法・受身・代名詞・指示詞の多用傾向が顕著なこと、早川の北海道の農村の生活実態、地主としての農場解放の苦悩などが書いた文学作品と所得・資産分布の論文は、どちらも「貧困の実態」の静かな指摘である。

研究成果の概要(英文)：This research compared writings in literature and social sciences by Miyoji Hayakawa (economist and author) and his mentor Takeo Arishima (author) to analyze the impact of social-cultural and political changes on the Japanese language after the Meiji era. This included qualitative analysis of Otaru University of Commerce's Hayakawa collection and quantitative analysis of both men's writings. Both types of writings showed Western influence, but this was more strongly observed in their literary works. Such influence was seen through their frequent use of inanimate subjects, personification, passive voice, pronouns, and attributive adjectives.

研究分野：言語変容

 キーワード：早川三代治 有島武郎 分野による表現差 計量言語分析 北海道の開拓村 格差問題 思想言語統制
札幌農学校

1. 研究開始当初の背景

(1) 明治末期から大正期にかけては、欧米の急進主義的社會主義が日本社会と文化に直接影響を与え始めた時期である。その西欧思想が、社会科学の文章から民衆の読み得る文学作品に反映するまでには、時間だけでなく、文体上の変革が要請されていた。その結節点となる文学作品は、白樺派の文学とプロレタリア文学に見られるが、文体の変化や社会科学分野の文献との文体の差は直感的な考察以上のものではなかった。

(2) 文筆家は多数いるが、文学と社会科学の両分野で、文章を書いている作家はあまり多いとは言えない。早川三代治(1895-1962)については、日本にパレートなどの数理経済学を紹介した経済学者としては知られているが、有島武郎(1878-1923)の数少ない文学の弟子としては知られていない。有島との関係についての先行研究も多いとは言えない。

(3) 有島武郎は、札幌農学校農業経済学専攻(19期生)であり、北海道狩太に農場を持つ地主でもあった。その農場解放については、文章としても書かれており、当時の社会的影響は強かった。有島は、華麗な「欧文脈」を書くことでも有名な大正時代を代表する作家であった。

(4) 早川三代治は、小樽の大地主の長男として生まれ、父の死後自らも地主業を継ぎ、自作農創設時代に小作との関係に苦労するという体験をしている。札幌農学校の後身である北海道帝国大学1期生であるが、その前身である東北帝国大学農科大学予科で英語の担当教官であった有島武郎と出会い、ドイツへ留学するまでの7年間親しく交流している。有島の死は早川が留学中に起きた出来事であった。早川への有島の影響についての

先行研究は多くない。

(5) 有島も早川もその文学活動では社会文化と政治機構変動時代の変化からの影響を強く受けている。有島の生きた時代は大正デモクラシー時代であり、自由主義や社会主義への弾圧が始まった時期であった。有島は米国留学中にトルストイやクロポトキンの著作を読み、影響を受けている。大逆事件の幸徳秋水との関係もあり、当時の官憲に目をつけられていた。早川は、明治の末期に生まれ、言論思想統制の厳しくなっていく時代に学生生活を過ごし、戦中に文学作品を発表して検閲でページ削除を受けている。戦後もGHQの検閲で変更対象となった作品がある。

2. 研究の目的

(1) 日本の近代過程で生じた社会文化と政治機構変動などによる言語変容の実態を文学と社会科学の2分野の文章で探ること。

(2) 上記研究の背景から、二人の作家として、札幌農学校農業経済学専攻の有島武郎と、その教え子で唯一、文学的創作活動も行い、経済学者早川三代治を中心に、その日本語の文章の欧化状況について、社会文化と政治機構変動など時代背景からの影響を含めて計量的考察を行うこと。

3. 研究の方法

(1) 西欧からの思想を含めた文化の流入状況および、それに伴う日本の社会文化と政治機構変動などの時代背景分析・有島武郎・早川三代治の活動と作品の表現内容研究。

(2) 小樽商科大学附属図書館所蔵早川文庫および追贈資料などの資料調査。

(3) 欧文脈的日本語の計量分析。文学作品と社会科学的文章の冒頭の1000字での段

落数・文の数・1文の平均文字数・長い連体修飾の出現度数・欧文脈の特徴（無生物主語・擬人法・受身・代名詞・指示詞などの使用度数）の計量と用法の考察。

4. 研究成果

(1) 有島武郎の文章に見られる西欧語の影響を受けた言葉の用法が早川三代治にもみられる。殊に、無生物主語・擬人法・受身・代名詞・指示詞の多用傾向が見られる。早川の文学の代表作〈土と人〉の第二部では、第三人称代名詞「かれ」の多用、殊に、「かれ+の」が連続して使われており、一種のリズムを生んでいる。この「代名詞+の+人体の部分」は有島の *An Incident* にも見られる用法である。その他、構文的には、長い連体修飾節の使用が見られるが、有島の方が頻度が高い。

(2) 文章の長さ冒頭 1000 字の文章においては、段落数、文長は、分野によって大きな異なりが見られる。平均で段落数は、社会科学の文章の方が多く、文長がやや長い。文学作品では、1934 年以降に書かれたものでは、短篇と長篇の段落数、1 段落の文の数、平均文長にほとんど差がない。しかし、1933 年に出版された初期の短篇では、段落数が約 1.6 倍多く、文長もやや長い。語彙的には、早川の文学作品では、初期の戯曲を除くと、外来語の使用は少ない。

(3) 二人の生きた時代は、日本の近現代史における激動期である。有島は、日本に社会主義思想が流入した大正デモクラシーの時代に作家として活躍し、自分の農場を小作人に解放した。地主の息子であった早川は、師の所有に関する考えに共鳴するが、経営破綻しかけていた自家の農場をただで解放できずに苦悩するが、結局、国策であった自作農創設法による解放を行う。

早川の代表的文学作品では、それらのことが、生存権が憲法で認められていなかった当

時の北海道の開拓農民の生活状況、明治以降の北海道の開拓の状況、自分の農場で地主と小作との関係などが書かれている。早川は経済学者としては、文学と同じ北海道について、耕地の分配状況や所得・資産分布についての論文を書いているが、これは文学作品と同根の所得格差や貧困の実態の指摘であると言える。プロレタリア文学とは異なり、生の思想的な表現を使わずに、客観的な記述によって日常生活が克明に書かれている。こうした点から、早川の文学的文章は、有島より、もう一人早川の文学の師である島崎藤村の文に近いことが推測された。

(4) 研究課題を申請した当时には、想定しなかった主な研究成果として次の 2 点を得た。

早川文庫（和書・洋書）および現在もまだ追贈中の資料の調査と分析から、早川は、文学の分野および所得資産分布の研究を中心とした社会科学分野の資料（著書、参考文献、メモ、論文草稿、校正刷り、書簡類、講義ノート、学生時代のノート類、戸数割りの統計資料、統計データなど）を多数残している。追贈資料（現在整理作業中）は、今後の早川研究の貴重な資料であることが判った。

また、早川の多面的活動を追う中で、文学作品の執筆と併行して行われた経済学者（社会学者）としての研究の足跡の出発点は、北海道帝国大学卒業論文にあること、パレートなどの数理経済学の日本への紹介に貢献があったこと、日本の近代化の始まりに北方領土の開拓の人材育成として欧米の大学に模して創設された札幌農学校の農業経済学の学問研究の系譜が早川三代治まで続いていることが、早川文庫の資料などからの推論として得られた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計3件)

金城ふみ子、経済学者早川三代治の長編小説<土と人>の執筆意図、校正、出版の経緯 作品分析の背景考察の試み、東京国際大学論叢経済学部編、査読無、第51号2014、43-68

金城ふみ子、経済学者・早川三代治が小説『処女地』で描いた北海道虹別開墾村民の生活、東京国際大学論叢人文・社会学篇、査読有、1号、2016、1-37
http://www.tiu.ac.jp/about/research_promotion/ebook/1_humanities_and_sociology/#page=5

金城ふみ子「経済学者早川三代治の自伝的小説『若い地主』・「農地解放」に見られる悩みと打算 札幌農学校につながる二人の文人：師有島武郎と弟子の早川三代治、有島武郎研究 第19号、有島武郎研究会誌、査読有2016、63-76.

〔学会発表〕(計3件)

金城ふみ子「三つの顔を持つ経済学者早川三代治の土への関心 師有島武郎とクロボトキンと農村文学」有島武郎研究会第58回全国大会(2015年11月21日、二松学舎大学)

金城ふみ子「所得分布統計作成の日本における歴史の変遷について 汐見三郎と早川三代治」統計数理研究所共同利用研究(2016年8月18日、統計数理研究所)

金城ふみ子「所得分布統計作成の日本における歴史の変遷について」統計関連学会連合大会企画セッション(36)オーガナイザー(松田芳郎・馬場康雄・仙田徹志)(2016年9月7日、金沢大学角間キャンパス)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金城ふみ子(KINJO, Fumiko)
東京国際大学・経済学部・教授
研究者番号：50275799

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者

松田芳郎(Matsuda Yoshiro)
一橋大学名誉教授
東京国際大学名誉教授

早川佳郎(Hayakawa Yoshio)
早川三代治四男

石野多加子(Ishino Takako)